見てみよう！歴史災害記録と旬のあいち

February 2025 vol.130

◆天狗岳（仁和３年の山体崩壊）

所在地：長野県茅野市豊平

交　通：小海町営路線バス「稲子湯」停より登山道

山梨県は小淵沢の民宿に泊まったときのこと、宿主と八ヶ岳の話で盛り上がり、このあたりは山の中だけど『海』が付く地名が多いんだ、という話を聞きました。八ヶ岳の東を流れる千曲川の流域には、長野県南牧村の海ノ口や海尻、小海町の小海など、海の付く地名が並んでおり、小淵沢駅から北へ小諸市の小諸駅まで走る JR 小海線にも、佐久海ノ口駅、海尻駅、小海駅など、海の付く駅名が現れます。これには、平安時代の南海トラフの地震が深く関わっていると言われています。今回と次回は、近年有力とされている説に基づき、この地名の謎に迫っていきます。

仁和３年７月 30 日 (887 年８月 22 日)、南海トラフを震源とする地震と推定される、仁和地震が発生しました。仁和地震は平安時代に発生した地震であり、被害についての記録などは多くはありませんが、『日本三大実録』には、「京都では諸司の舎屋や民家の多くが潰れ死者も出し、五畿七道諸国（東北から九州まで）が同日大きく揺れ官舎が倒壊、津波による多数の溺死者を出した」との記録があり、日本列島全体を大きく揺らした南海地震、あるいは東海地震・南海地震の同時発生だったとも言われています。

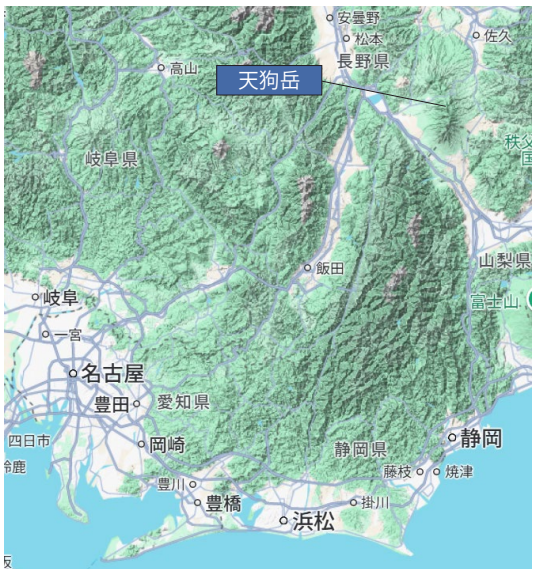
南海トラフ地震と考えられている仁和地震ですが、『扶桑略記』には「信乃国大山で大規模な山体崩壊が発生し、大河を閉塞して巨大な天然ダムが形成された」との記録も残され、この「信乃国大山」が北八ヶ岳であるとされています。（この時代の別の地震が原因とする説などもあります。）

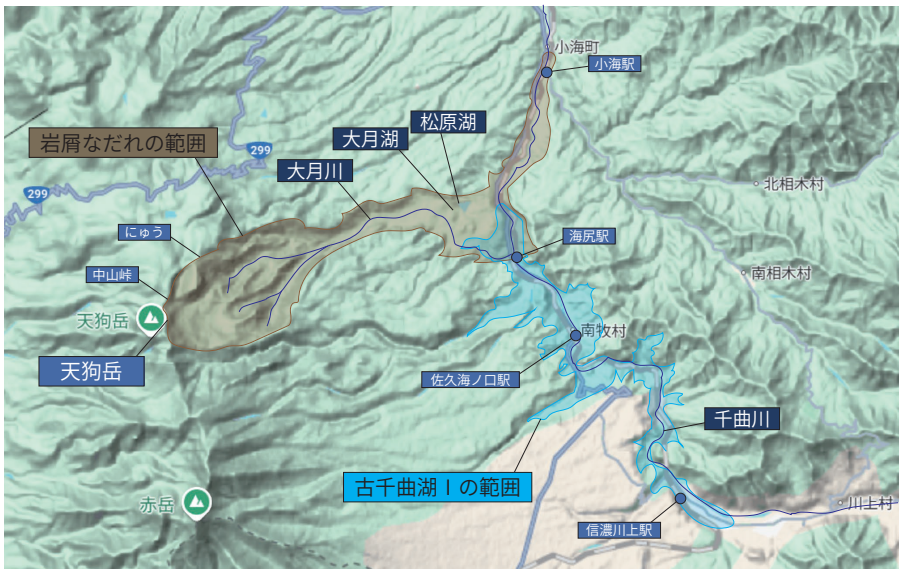
仁和地震で大きな揺れに見舞われた北八ヶ岳では、東側斜面において、天狗岳から中山峠を経てにゅうへと至る範囲で大規模な山体崩壊が発生し、大量の岩屑なだれが、千曲川へと注ぐ大月川に沿って流下しました。大月川が千曲川に合流する手前の傾斜が緩やかになったあたりでは、岩屑なだれが集まってできた流れ山が残り、窪地には水が溜まって、松原湖や大月湖が形成されています。

最終的に千曲川へ流れ込んだ岩屑なだれは、大月川と千曲川の合流地点から下流へ、現在の小海駅あたりまでを埋め、千曲川を閉塞して天然ダム湖を形成しました。のちの研究により古千曲湖Ⅰ（南牧村史では南牧湖）と命名されたこの天然ダム湖は、当時の地形や等高線から推定すると、湛水高は 130m 程度、湖の範囲は現在の海尻駅から信濃川上駅のあたりにまで及び、湛水面積は 13.5 ㎢、湛水量は 5.8 億㎥程度とされ、日本で最大規模の天然ダム湖であったと考えられています。北八ヶ岳の崩壊と岩屑なだれによって作られたこの天然ダム湖の様相については、「日本の地形千景プラス　長野県：八ヶ岳（天狗岳）の山体崩壊で生まれた松原湖と大月湖」（https://www.web-gis.jp/GM1000/GM_Red1/GM_Red1-115.html）に、三次元イメージ図を用いてわかりやすく表現されています。

日本で最大規模の天然ダム湖は、以後、１年近く水を溜め続けますが、303 日後に大雨により決壊します。長野県の海の付く地名と仁和地震との関係の話は、次回に続きます。

天狗岳





◆災害にまつわる碑や史跡には、実際にその地域で起こったことが記録されているだけでなく、当時の人たちの思い（二度と被害を繰り返さないように、など）が込められています。碑や史跡の前では、災害が実際にこの地域で起こるということを実感していただくとともに、そうした先人たちの声に耳を傾け思いを巡らせ、身の回りの備えにつなげ、これからの防災に活かしてください。

◆見てみよう！歴史災害記録と旬のあいち バックナンバーから

● 山崩遭難供養塔 (vol.61,2019.5)

所在地：新城市四谷
交　通：豊鉄バス田口線「滝上」停 北東 約 3km

新城市四谷の千枚田は、日本の棚田百選にも選ばれる 700 年以上の歴史を持つ棚田です。標高 883m の鞍掛山の南西の斜面に階段状に広がるこの棚田は、石垣で形作られており、まさに日本の原風景に出会うことができます。

今日この素晴らしい風景を形作っている千枚田ですが、過去には悲惨な災害に見舞われた歴史があります。明治 37(1904) 年 7 月 10 日、田植えが終わった頃から 20 日余りも降り続いた長雨と台風により、鞍掛山に隣接する通称・貧乏山で大規模な山津波（山崩れ）が発生します。山津波は人々や馬、民家を飲み込み沢に沿って約 600m 下方まで流出し、死者 11 名、家屋 10 戸と馬 2 頭が流出、沢沿いの棚田はすべて崩壊するという大惨事となります。

途方に暮れた集落の人々でしたが、美しい棚田を取り戻すべくすぐさま立ち上がります。ブルドーザーなどの重機もなく、コンクリートもない時代に、流れ落ちてきた石を人力で積み直し、モッコに土を入れて運び、地道に耕して、幾年もかけ見事な石垣の千枚田を復興させたのです。

山津波により犠牲になった方々の霊は、鞍掛山のカシャゲ峠に供養されています。カシャゲ峠は、かつては信州へ向かう伊奈街道の峠で、現在では鞍掛山を登る東海自然歩道が整備されており、この歩道の途中に山崩遭難供養塔が安置されています。塔は昭和 31(1956) 年に地元有志により建立されたもので、碑文には「字鞍掛飛渡ヨリ山崩」とあり、犠牲となった 11 名の名前が記されています。

国土地理院 HP より

◆詳細は、見てみよう！歴史災害記録と旬のあいち vol.61（https://www.gensai.nagoya-u.ac.jp/rekishijishin/geppo.html）をご覧ください。

★ 氷上トライアスロン小海大会

小海町の冬の風物詩、第 34 回となる～ジャパン・ウィンタートライアスロンシリーズ～氷上トライアスロン小海大会が、2025 年 2 月 2 日 (日) に開催されます。小海大会の氷上トライアスロンは、スラロームスキー 3km、ランニング 16km、スケート 10km を同一選手が連続で、またはチームによるリレーで行う競技で、選手たちはマイナス 15℃の極寒の地で、体力の限界に挑みます。

小海町観光協会 HP より

スラロームスキーの会場はシャトレーゼスキーバレー小海、スケートの会場は松原湖高原スケートセンターとなっており、前日の 2 月 1 日 (土) には、ガトーキングダム小海で開会式・レセプションが予定されています。

～鉄道で巡る～

photo AC より

小海線は小淵沢駅から小諸駅までを結ぶ JR 東日本の路線で、区間南側は八ヶ岳の東南麓を走ることから、八ヶ岳高原線の愛称が付けられています。

標高 1000m を超える野辺山高原を走り、清里駅～野辺山駅間には、標高 1375m の JR 鉄道最高地点があります。また、標高 1345.6m の野辺山駅は JR 線全線で最高の標高となっており、甲斐小泉駅から松原湖駅までの 9 駅は JR の標高の高い駅トップ 10 に名を連ねます。

●ブレイクタイム●

♪ 松原湖

天狗岳の山体崩壊によってできた松原湖は、猪名湖・長湖・大月湖の総称で、一般的には最も大きい猪名湖単体を指します。春は爽やかな新緑、秋は美しい紅葉が見られ、小海町のシンボルのひとつとなっており、湖畔には、松原湖の様子が歌詞のモチーフになったと言われる「北風小僧の寒太郎」の歌碑があります。冬場は、結氷した松原湖の湖上から楽しむワカサギの氷上穴釣りが名物となっており、釣ったワカサギをその場で食べられる調理器具のレンタルもあります。

photo AC より

◆ この地域の災害に関する碑・史跡、資料・体験談集、地域に残る古文書、研究資料、郷土史研究者・団体などの情報がありましたら、gensaisan2014@gmail.com まで情報をお寄せください。

◆ この地域の歴史災害記録をオンラインツアー形式、マップ形式で紹介しています。各地の碑や史跡等にご興味をお持ちいただけましたら、『災と Seeing』のホームページ（https://www.saitoseeing2020.jp/）をぜひご覧ください。

（発行：減斎の会・名古屋大学減災連携研究センター　2025 年 2 月）